

戦略産業育成

④熊本県次世代ベンチャー創出支援コンソーシアム

「KUMAMOTO TECH PLANTER（熊本テックプランター）」（2021年優秀賞）

受賞理由：コンソーシアムを構成する5者（熊本県、肥後銀行、熊本大学、熊本県工業連合会、株式会社リバネス）により2016年2月に締結された「次世代ベンチャーの発掘・育成に向けた連携協定」に基づき、県内で新たな産業を創出する大学等研究機関や企業等から、アグリ・バイオ等の自然共生型産業などをはじめとした次世代技術・シーズを目利きによって発掘し、創業支援やハンズオン支援を一貫して行う創業支援プラットフォームを構築している。

各機関がそれぞれの強みを生かした施策を次々と展開し、11社のテクノロジーベンチャーを県内に誕生させ、支援先の中には資金調達に成功しビジネスを大きく展開し始めている企業も出始めている。

今後さらなるプログラムの地域定着と事業促進を目指しており、一層の事業展開の進展が期待される。

（実施者）

- ・熊本県・株式会社肥後銀行・国立大学法人熊本大学・一般社団法人熊本県工業連合会
- ・株式会社リバネス

（事業の背景及び経緯）

コンソーシアムを構成する5者により2016年2月9日に締結した「次世代ベンチャーの発掘・育成に向けた連携協定」に基づき、熊本県において新たな産業を創出する大学等研究機関や企業等から、アグリ・バイオ等の自然共生型産業などをはじめとした次世代技術・シーズを目利きにより発掘し、創業支援やハンズオン支援を一貫して行う創業支援プラットフォームを構築。産・官・学・金の関連各所との連携を強化し、将来的にはグローバルに活躍するメガベンチャーを創出、熊本県内での新産業創出、雇用促進に繋げることを目指しています。

（事業内容）

前述の目的を達成するため、支援プラットフォームの構築及び運営、次世代ベンチャーコンテストの開催、次世代技術の発掘及び育成、パートナー企業の発掘及びマッチング、その他目的に合致する事業を行っています。大学等研究機関や企業等から発掘した事業シーズに対し、主に以下の6つの支援によって事業化を推進します。

①ハンズオン支援：研究とビジネスとの橋渡しを担う、株式会社リバネスのサイエンスブリッジコミュニケーター[®]が定期的な面談を実施し、個々のチームの状況に合わせてコンソーシアム各機関の強みを活かしたハンズオン支援を実施します。支援内容はチーム作り、試作支援、初期の資金調達、広報PR等に関する相談のほか、県内外のパートナー企業とのマッチングサポートなど多岐にわたります。

②ベンチャーコンテスト：県内のベンチャー候補者（研究者）が保有する技術シーズを事業化に向けてプレゼンをおこない県内外のパートナー企業や参加企業、学生と共有し、ベンチャー創出やマッチングを「テックプランングランプリ」として開催しています。なお、エントリーチームには、専門分野の異なる相手に、コア技術と事業化への道筋などをわかりやすく伝えるためにプレ

ゼンテーション作成をサポートします。

③事業化にむけた各種スクール：事業化を目指す研究者・起業家や立ち上げたばかりのベンチャー企業を対象とする勉強会「リアルテックスクール」を開催します。経営に必要な知識として、登記の方法や、資金調達、知財や法務などといった重要な項目や起業初期につまづきやすいポイントなどを学ぶことができます。

④地域産業とのマッチング：研究者やベンチャー企業と地元企業が地域の課題に対して研究成果やコア技術をどのように生かせるかを議論するマッチング会を行います。地域との交流を通して、新たなビジネスアイデア創出のきっかけを作ることを目指し、2016年は水俣市、2017年度は水俣市と菊池市にて実施し、2018年度は八代市が加わり、熊本県内の自治体を巻き込んで実施しています。また、2019年からは熊本県工業連合会の会員企業と研究者・ベンチャー企業との出会いの接点をつくっており、研究面での連携が生まれています。

⑤キャリアフェア：熊本大学を中心として、熊本テックプランターで生まれたベンチャー企業と大学生・大学院生が出会える場所を創出。熊本県ではまだ馴染みがないベンチャー企業への理解と共に、将来の進路として考えるきっかけを作っています。

⑥投資プレゼン：研究成果が世界を変えうる技術であることを実証し、技術の普及を進めていくことはテクノロジー系ベンチャー企業の成長の鍵になります。そのために必要な資金調達について、金融機関やベンチャーキャピタルへのプレゼンテーションの機会を設けています。本会を起点として、熊本テックプランターの取組から生まれたベンチャーが合計で10億円の資金調達に成功しています。

(成果)

2016年度からの5年間で、新たな技術系ベンチャー企業が11社誕生しました。また延べ8社が、委託事業や出資・融資を通じて合計10億円を超える資金調達を実現しました。2018年度には、トイメディカル株式会社がロート製薬株式会社と資本業務提携を行い、AMI株式会社やブルームテクノロジー株式会社が資金調達を行うといった成果が現れています。また、これらのベンチャー企業の成長により、熊本であらたに45名を超える雇用を創出しています。

また、熊本テックプランターと連携により、水俣市での中高生の学会の開催やベンチャー誘致、菊池市におけるベンチャー企業と農業者との実証試験の実施、さらには、は2017年までに3社のベンチャー企業誘致を実現し、雇用も生まれました。さらに水俣市では、中高生のための学会「サイエンスキャッスル」の九州大会を開催し、熊本県を中心とする九州地域から約300名の中高生研究者が集まり、ベンチャー企業や研究者と交流しました。研究者の未来の活躍の姿を示すことにより、次代を担う中高生の育成につながる教育活動として波及しています。農業を主幹産業とする菊池市では、2018年度に地元農家とベンチャー企業が協業し、農家の課題を解決に導く技術の実証事業をスタートし、これまでに10件をこえる技術実証を行っており、農業技術の進展と就農人口の増加を見込んでいます。

このように、ベンチャー創出支援を軸に、地域自治体と地域産業の活性化や学校教育との連携も実現しています。

(事業に取り組んで苦労したこと)

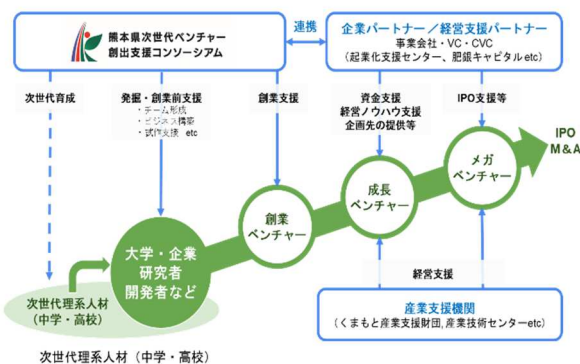
事業化に向けて動き出している研究者やベンチャー企業は、それぞれ抱える課題は多様であるということです。画一的な方法では事業化を推進できないため、密なコミュニケーションと多角的

な支援が必要になります。このような課題は、単一機関で解決できるものではなく、コンソーシアムの構成機関の各者が有機的に連携する体制を築けていることで、前述のように価値ある支援を提供できていると考えます。

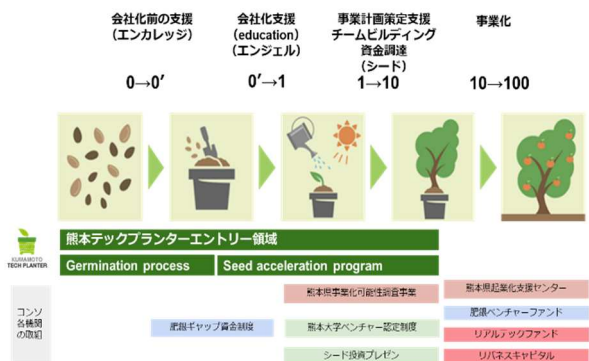
(事業の成功要因)

コンソーシアムの各機関同士、そして、研究者・ベンチャー企業と密にコミュニケーションを取っていることだと考えます。ベンチャー企業が抱えるコア技術の研究や事業化への課題をお互いに共有したうえで、課題解決のリソースを議論しました。そして、都市部にその解決策を求めるとはならず、熊本でまずは何ができるかを考え、各機関での解決策を設計してきました。技術系のベンチャー企業は創業初期のコストや労力、時間も長くかかるため、理念・ビジョンに立ち返りながら、どのように事業を成長させていくのかを考えることが重要です。本コンソーシアムのメンバーはベンチャー企業を支援するのではなく、長い道のりを一緒に走るパートナーとして接していることが成功の要因であると考えます。また、将来的には熊本にこの支援制度を根付かせるべく、継続的な支援の構築についても議論し、設計しています。

熊本テックプランターが目指すエコシステム



熊本テックプランターのチーム支援領域



5年間の実績まとめ

□熊本テックプランターメンバー（2021年2月26日現在） ※同チームが複数回エントリーしている場合は1チームと計算

139チーム 企業 52社 研究者・学生 87チーム

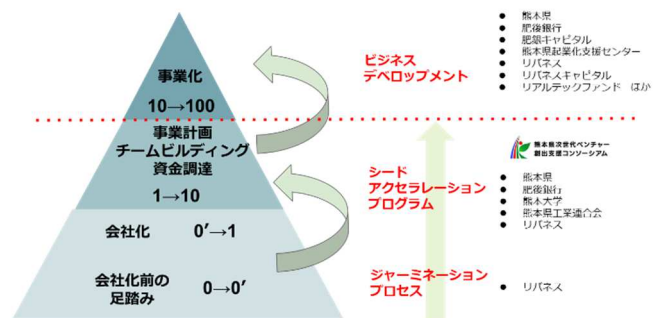
□法人化チーム数 11社

□外部資金調達 8チーム (2016年度1、2017年度4、2018年度5、2019年度3、2020年度1※重複あり)

18.6億円

融資 1億2850万円
出資 15億3110万円
委託金・助成金・補助金 2億279万円

次の5年はプログラムの地域定着と事業化の促進





技術シーズ発掘および次世代ベンチャー創出プログラム

KUMAMOTO TECH PLANTER（熊本テックプランター）

2022年度は大学研究者13チーム、企業13社の合計26チームがエントリー。その技術領域の内訳は、ものづくり分野が約26%、創薬・医薬分野が約20%を占めるという、熊本の地場産業や大学の強みを反映したものであった。7月には書類審査を通過した9チームがパートナー企業やコンソーシアムで構成された審査員の前で、研究成果の社会実装にむけたビジョンを披露した。

第7回熊本テックプランングランプリ

日時:2022年7月17日(土)13時~17時

現地参加:96名 オンライン参加:100名

合計参加者 196名



2016年に開始した熊本テックプランターでは、これまでに201チームがエントリーし、そのうち14社のベンチャー企業が誕生。延べ10チームが22億円の資金調達に成功している。

□熊本テックプランターメンバー

201 チーム

企業 **71** 社

研究者 **110** チーム

□法人化チーム数

14 社

□外部資金調達

10 チーム

(2016年度1、2017年度4、2018年度5、2019年度3、2020年度1、2021年度2※重複あり)

累計 **22億円**